

# 東北農業経済学会 Newsletter 2008春

## 会長挨拶

会員の皆様、日頃の研究活動ならびに学会活動へのご協力、誠にありがとうございます。

この度、3月22日(土)、第1回常務理事会を山形大学農学部において全常務役員参加の下に開催し、大変活発に論議することができました。焦点の一つは、来る9月4日(木)役員会、5日(金)シンポジウム、6日(土)個別報告として開かれる「新潟大会」についてです。青柳大会担当理事を中心に着々と準備が進んでおります。会員はじめ関係者の積極的なご参加で、有意義な大会にして下さるようお願い申し上げます。

焦点のもう一つは、「学会活動の活発化」の手法についてです。その具体的手法の一つとして「木下賞基金」を活用することができないか、検討しました。同基金は、本学会初代会長の故木下彰先生が、まさに「学会活動の活発化」を願って私財を投じて造って下さったものです。本学会は、その基金から本学会の学術賞(木下賞)、実践賞、奨励賞(今年度からは学会誌賞も)の表彰に係る費用を賄っています。

基金総額は256万9千円(平成19年7月31日現在)に及びますが、平成18年度の支出額は5,944円です。1年に6千円程度の支出としますと、同基金は実に428年間も安泰だということになります。学会賞への運用が有意義であったことは、会員一同異論のないところだと思います。が、現在の厳しい情勢に鑑みると、故木下先生のご遺志に良く沿うには、それだけで良いでしょうか。「学会活動の活発化」に向けてさらなる工夫をすべきではないか、それがこの度の常務理事会の結論でした。

そこで、同基金に「研究費補助金」部門を新たに設け、1年間に10万円程度の研究費(5万円×2件分)を支出することにしたいと思いますが、いかがでしょうか。それでも、基金は20年分程度あります。が、目減りしていく分はそのままにしておかず、本学会関係者等から寄付を募って補填し、基金を維持していくというやり方にしたら如何でしょうか。1件5万円とはあまりに些少ですが、東北地域を対象にする限り、調査地を数度訪れる補助金になることは明らかです。

新潟大会の折にこうした議題を提起させて頂きたいと考えています。皆様のご賛同が得られるなら、さっそく具体化して募集に踏み切り、有効な活用に着手したいと考えております。如何でしょうか。補助金額の設定や目減りする金額の補填方

法等についても、会員各位の忌憚のないご意見をお寄せ下さればありがたいと思います。

東北農業経済学会長  
佐藤 了(秋田県立大学)

## 2008年度学会賞候補者の推薦について(告知)

東北農業経済学会 会長 佐藤 了

本学会では、東北農業の発展と農業経済学の発展を期することを目的に、東北農業並びに農業経済学に関する顕著な業績に対し、東北農業経済学会賞を授与しています。2008年度の学会賞候補者の推薦を下記により受け付けます。今年度より一般会員からの推薦も受け付けることになりましたので、積極的に推薦して下さるようお願いいたします。

1. 学会賞の種類：学術賞、奨励賞、実践賞
2. 候補者の要件：学会ホームページの学会賞表彰規程をご覧ください
3. 提出書類：  
推薦書(1部)：学会賞事務局にご連絡いただければ、用紙等をお送りいたします。また、学会ホームページからも入手できます。  
関係資料(9部、コピー可)：推薦書で参照される著書や論文等の主要な業績
4. 提出先：学会賞選考委員会事務局  
(〒020-0198 盛岡市下厨川字赤平4 東北農業研究センター東北地域活性化研究チーム  
長谷川啓哉、019-643-3492  
E-mail:hasecho@affrc.go.jp)
5. 提出期限：2008年6月20日(金)

## 論文の募集

編集委員会では、多くの会員の皆さんからの論文投稿をお待ちしています。

原稿は和文・英文どちらでも結構です。分量は和文で最大22,000字(印刷頁数で12頁)が目安です。詳細については学会ホームページの「会則・規程」の『東北農業経済研究』投稿規程をご覧ください。

投稿先、問い合わせ先は以下の通りです。

東北農業経済学会編集担当常務理事 小沢互  
〒997-8555 山形県鶴岡市若葉町1-23  
山形大学農学部地域計画学分野 気付  
Tel&Fax: 0235-28-2944  
E-mail: wo1995@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp

## メール会員の募集について

昨年秋からご案内していますが、ニュースレター等、学会からの送付物をメールで配信し、経費と労力の軽減につなげたいと考えています。そのためメール会員を募集することにします。ニュースレター等の送料が不要になるため学会費を少し軽減することが可能になりますが、学会費の区分を増やすと事務が煩雑になるので、さらに検討を続けるつもりです。

メール会員の登録を希望される方は送信先アドレスを明記して下記までお申し込み下さい。

申込先(学会事務局): ohkama@bios.tohoku.ac.jp

## 学会の動き

### 2007年度第1回常務理事会

日時: 2008年3月22日(土)14時~17時

場所: 山形大学農学部

出席者: 佐藤了、鶴川洋樹、大鎌邦雄、神田健策、小沢互、小山良太、青柳斉、柳村俊介

#### 1. 新潟大会の開催計画について

9月5日(大会シンポジウム)、6日(個別報告)の2日間の日程で開催し、今回はミニシンポジウムを行わないことを確認した。ただし、会員からの希望があれば、ミニシンポジウムに代わる分科会を開催する可能性を残すことにする。実行委員会の責任者は青柳理事が務める。新潟大学農学部を会場とし、懇親会も大学生協で行う等の対応によって経費を抑え、学会から支給される大会開催費(20万円)と参加費で費用をまかなう予定。

#### 2. 「推進会議・現地研究会」に関わる東北地域農業試験場との連携について

鶴川副会長より、平成21年度以降の東北農業経済学会と東北農業試験場研究推進会議(経営分科会)現地研究会を連続的な日程で開催できないか、その場合、現地研究会を東北農業経済学会との共催で開催できないか、現地研究会の内容や日程についてはその年度の事務局が検討する、という提案があった。学会と現地研究会を合体するためには日程の工夫が求められる、現地研究会を担当する事務局から学会理事を出す必要がある、新潟大会の際の現地研究会の持ち方を検討す

る必要がある等の検討事項があげられるが、できる限り共同で開催する方向を追求することを確認した。次回の常務理事会で再度検討する。

#### 3. 学会誌の編集・発行について

第26巻1号と2号の編集を進めており、5月と6月に印刷する予定であることが報告された。

#### 4. 学会賞の候補の募集と選考について

ニュースレターを通じて会員に候補者の推薦を依頼することにした。

#### 5. 会員管理について

会費滞納者に対し、各県の担当理事を通じて会費納入を働きかけることにした。

#### 6. メール会員の募集と会費について

メール会員の申し込みが3件寄せられている。メール会員の拡大をはかるが、メール会員の会費値下げは事務手続きの煩雑化を招くので当面見送ることにした。

#### 7. 名誉会員の推薦について

名誉会員の対象となる歴代の会長・副会長を確認する。名誉会員に対し学会への寄付を依頼するかどうか検討するが、今年度は過去に遡って推薦を行うので、寄付の依頼は行わないことにした。

#### 8. 評議員交代への対応について

各県の担当理事を通じて、4月の異動による評議員の交代を確認し、交代の場合は新評議員に委嘱状を発行することにした。評議員の任期は残任期間となる。4月末までに確認を終える。

#### 9. ニュースレターの発行について

4月末までに原稿を集め5月10日頃に発行する。会長挨拶、新潟大会の案内、学会賞候補の推薦、学会誌論文の投稿募集、メール会員募集、第1回常務理事会の報告等の記事を掲載する。

#### 10. ホームページの更新について

ニュースレター発行と同時期にホームページを更新することにした。

#### 11. 木下賞の基金活用について

研究費補助金として活用することを次回常務理事会で検討することにした。

## 編集後記

食品の安全性、食品・穀物の価格高騰など、食料問題への不安、関心がかつてないほど高まっています。こんな時こそ学会の存在価値が問われるのでしょうか、「出番」を座して待つだけでなく、より能動的な取り組みが必要ではないかと感じます。ニュースレターは春と秋の年2回発行します。昨年から、大会案内はニュースレターの配布時に紙上ないし別紙でお示しすることにしました。大会に関する追加情報がある場合はホームページでお伝えしますので、そちらをご確認下さい。今年の大会は開催県は新潟です。会員の皆様と9月の新潟でお目にかかることを楽しみにしています。